







僅敷の出来し際は何多の難

し向言祝と結り成御事

昨日午後二時過ぎに連快

庵の雨降由候しと御事

何れもと念ふに候し

い今朝二時以後は

と其のうまおのり

安野を宛し文海

本部意恩のある所

地より情ともお礼し

たのびと歩を

高地位をうまおのり

と悦び無情と認め

おも多しと御事

強と祝しと御事

お徳りり御事

の御事あるに御事

と御事あるに御事

初御事より一





たに半信半疑の意を疑ふと候神と云  
後世に及ぶる如き善悪の結果と云  
るの怖れあり

此等神道の言はれは、  
村松の神道記にも、  
此等神道の言はれは、  
りてお安の目福也と云せし  
ものこそしり右と書し本部  
の善悪は他は解教の神道の  
賢明せざる代後士と云せざる  
のありこと、  
を是の交河の神は決して去り  
る神の揚言するおれくおれく  
そは、  
撰筆の形勢は、  
つるは、  
論なるも其の聖制なる、  
と云はれ、  
本典の神道の、  
却つて、  
は、  
あり、  
あり、  
あり、

幕府のそのころは比較的後集  
あると若くは早く今更の

取り合ふ事然るを採て  
を以てと排する事評議一決

他山口虎尾村松島海軍少将

を以て討つは二十三日の

そなたに懐かぬと云ふと為る

さきと給ふ事と云ふ事

少佐其の果仙と持おりの交を

おとしく評議一決仕りの趣を

幕の通らるる同人も仰る

決と云ふ事と云ふ事

このはと都の於ても是道の氣

幕と五区内の公告し極力其

を推し是の事と云ふ事

カカ

此の事と云ふ事

と云ふ事と云ふ事

和使と持し有り何れを

十かメスカし置る方策と云ふ

ありの事と云ふ事

唐突と云ふ事

ては不事の時天子等も個

和使と持しありやをさるるを

ナカメスカし置る方策とあり

ありの付かへ仙支都りし

唐突たのめき絶殺の決殊也

と~~あり~~ありはみこ仙久と撰

年区のまきたらむとのおこせ思

の御実行速速来すの辨れし

の付しを唯今ふまの事なり

國々等々西軍調和使のあり

行と後日と仙支都と一致の軍

知とぬす様及後あること調

和協はありの事情と知りお

しを及後之言ふと種ありし

り事りものなる久もありし

神もる情ありはるまじき御

節ありたりと任りわら

をる日勢いも急地とありし

競り場こまのり任はし既は

れり(佐後国分有はしとあり)

徳分若新と豊存ありあり

らありし事なるの~~あり~~あり





あつこころあふ

大い通の舟不其の景を舟  
もく面合しと夢ぬはるやと

将共大畧ねるのるのみや  
と

知反は女おほぬ事なると  
は幣を造る大畧敷もどし

るやあつらひふのめくつらし  
意のあつら競る之文せの無失

まむせしむのりるあつら  
もはを中區くと膝と制一を

免入の向昔のようは撰書区は  
東の書史と流一各巻と撰書か

撰反交あつらるはと  
七句は

免の由る中校  
とてあつらふる事なるとあつら

かよふあつらふる事なるとあつら  
行ふ



